



万葉岬からみた瀬戸内海国立公園



2024～2025年度国際ロータリーのテーマ

ロータリーのマジック

国際ロータリー会長 ステファニー A. アーチック

会 長 神谷 栄 幸
幹 事 高 谷 俊 祐
会報委員長 岡 田 佳 也

例会日/毎週水曜日 12:30～13:30

例会場/相生商工会議所 Tel(0791)22-1234

事務局/相生市旭3-1-23 相生商工会議所内

Tel(0791)23-0144 Fax(0791)22-2290

例 会 記 録

2025(R7)年 5月 14日

会報委員 阿賀慶彦

プログラム5月21日(水)

「MSC ベリッシマクルーズ」

(富田会員)

次週プログラム5月28日(水)

「阿弥陀様とお釈迦様との違い」

称念寺 住職 瀬川 慎 様

(水本会員)

◆点 鐘 (神谷会長)

◆ソング “それでこそロータリー”

◆出席報告 (大西恒例会運営委員長)

会員数	出席数	事前 メイクアップ	出席免除
25	21	1	2
本日出席率	事後 メイクアップ	4/23 欠席数	4/23 出席率
95.65%	1	0	100%

事前：高見会員 (Eクラブ)

事後：平田会員 (Eクラブ)

◆会長の時間 (神谷会長)

こんにちは。

最近は少し暖かくなってきました。いかがお過ごしでしょうか？

今週から私の大好きな大相撲が始まりました。大ファンの大の里、尊富士が3連勝！幸先の良いスタートを切りました。また、我が阪神タイガースも単独首位をキープしております。優勝間違いなしと思っております。

さて、先週の日曜日は龍野クラシックで西播第2グループのゴルフが行われました。参加された皆さんはご苦労様でした。私は出場するつもりでゴルフ場までは行ったのですが、どうにも痛風が再発しております。断念しました。ただ、会費とキャンセル料は払ってまいりました。

さて、今日はニコニコ箱についての記事がありましたので、お話ししたいと思います。特に新入会員はニコニコ箱とはよく分からない部分があると思いますので聞いておいてください。ニコニコ箱についての原理的な話をしておきます。ニコニコ箱には寄付金の原則が支配します。即ち、「金を出したい人が、出したい時に、出したい金額だけ出す」そして「出したい人必ずしも尊からず、出さらず人必ずしも卑しからず」これが寄付金の原則です。したがって、強制的要素の一切ないものをニコニコ箱というのであります。このようにニコニコ箱というものは、何か嬉しい事があった時に、それを記念して、ニコニコ笑って、何がしかの浄財を入れるものであって、罰金的要素のないものを言うのであります。したがって、これは一つの信託財産であって、クラブが何かの社会的奉仕活動をする時のために、この善き因縁のお金でその仕事をしてくださいよ。と言う形で、予めクラブ理事会に預けておくお金でありますから、クラブの通常会計が赤字になったからといって この金をクラブの赤字補填に使うことはできません。

何故なら、社会奉仕のためのニコニコ箱をクラブの赤字補填に使えば、ロータリアンが社会奉仕財源をピンハネしたことになるからです。要するに、お金を出した人の気持ちを尊重してクラブ理事会がこれを預かる。即ち、基本的には預り金であって、クラブの財源ではありません。

◆幹事報告 (高谷幹事)

○例会変更

・姫路 RC

6月4日(水)「年度末家族親睦例会」

18:00~20:00

神戸・神仙閣

○回覧…龍野 RC、赤穂 RC 週報

ハイライトよねやま vol 302

◆SAA (大西賢SAA)

ニコニコ箱

神谷会員…ニコニコ箱へ。先週の西播第2グループのゴルフでは、ラウンド出来なく申し訳ありません。

高谷会員…ニコニコ箱へ。

鳴瀬会員…先日、ワケあって茨城県へ観光に行ってきた。意外に良かったです。

半田会員…誕生日、結婚記念日の自祝。本日卓話させていただきます。よろしく願いいたします。

宗行会員…結婚記念日の自祝。

淮田会員…本日の卓話当番です。お話は半田齊会員にお願いしております。大西賢一会員、旭日双光章授章おめでとございます。

大西賢会員…先週の例会では大川副SAAにお世話になりました。ありがとうございます。

◆プログラム (大西恒例会運営委員長)

「地政学の歴史」

半田 齊 会員

担当 淮田会員

地政学 Geopolitics は、地理的な条件が政治・経済・軍事に与える影響を研究する学問であると言われていたが、れっきとした学問ではなく、防衛大学を除いて大学に学科や専攻科として存在しない。客観性に乏しく実証が難しい領域でもあると言える。しかしながら、その考え方は示唆に富んでおり、興味深い。

○地政学の3つのポイント

1. ランドパワーとシーパワー

ランドパワー：内陸国 道路・鉄道輸送 陸軍が強力
例) ロシア・中国・ドイツ

シーパワー：沿岸国・島国 船舶輸送 海軍が強力
例) アメリカ・イギリス・日本

※世界の対立の多くはこのランドパワーとシーパワーの国家間でみられる

2. ハートランドとリムランド

ハートランド：主にユーラシア大陸の中央部

ランドパワーを持った国が多く、
シーパワーを求めて周辺地域リム
ランドに侵攻する

リムランド：ハートランドの周辺地域

シーパワーを持った国が多く、ランド
パワーの国の侵攻を拒もうと対峙す
る

※ヨーロッパ、中東、アジアなどの紛争地域はリム
ランドにあたる

3. ルートとチョークポイント

ルート：交易のための陸路や海路

チョークポイント：ルートの途中にある、大陸間、
島や半島などの狭まった通過点

※チョークポイントの安全を確保すること、その国
との関係を良好に保つことが貿易・外交の大きな
焦点となる



ハートランド

- ・ユーラシア大陸中央部から北部に広がる領域
- ・寒冷で雨量が少なく、人口は多くない

リムランド

- ・ユーラシア大陸の海岸線に沿った領域
- ・温暖で雨量が豊富、人口が集中している

SPECTEE HPより



1. 大陸系地政学

◇フリードリヒ・ラッツェル (1844-1904)

ドイツ 生物学者・地理学者

国家や民族の発展や衰退の歴史を研究し、当時旺盛であった社会的ダーウィニズムの影響の強い思想を特徴とする。政治地理学の祖ともいえる。

寒冷地域の民族が温暖地域の民族を支配する例が多いことから環境に適した種が生き残る、ダーウィンの自然選択が当てはまると考え、“国家=生物”とする「国家有機体説 organic state theory」を歴史で証明しようとした。1897年に著書『政治地理学』で国家をその隣接国と生命圏を競い合う有機体と定義し、後のドイツの政治思想に多大な影響を与えた。

◇ルドルフ・チェーレン (1864-1922)

スウェーデン 政治学者・政治家

ラッツェルの理論をどう政治に活かすかを考え、強国が弱小国を併合していくと最終的に海洋に面した国家が誕生することから強国の理想的な境界線は海洋であるという結論に至った。国家は領土を広げて自給自足を可能にし、自国だけで完結する閉鎖経済にするのが理想である。境界が海に面するまで、閉鎖経済が実現するまで領土を拡大すべきと唱えた。国家を考えると土地(国家)と人間(国民)を考え、地理学と政治学の融合をはかり地政学と名付けた。

◇カール・ハウスホーファー (1869-1946)

ドイツ 地理学者・陸軍軍人

国家を生物に例え、生物は弱肉強食を突き詰めても大陸を済み分けているように、単一民族がユーラシアとアフリカの両方を独占支配することはないと考えた。ハウスホーファーはランドパワーの大国であるソビエト連邦とドイツの同盟(独ソ同盟)の主唱者の一人となった。弟子のルドルフ・ヘスを介してアドルフ・ヒトラーに影響を与えた。近年ではウクライナ戦争の背景となったアレクサンドル・ドゥーギンのネオユーラシア主義にも影響を与えているとされる。

○パン・リージョン理論 Pan Region theory

ハウスホーファーは世界をいくつかのブロックにわけて、アメリカ(汎アメリカ圏)、ソ連(汎ロシア圏)、日本(汎アジア圏=大東亜共栄圏)、ドイツ(汎ユーラフリカ圏)などがそれぞれの地域で主要な地位を占め、秩序を維持すべきとした。勢力均衡(バランス・オブ・パワー)理論に基づいて世界視野での勢力均衡を確立することを提唱し、それらを取りまとめる国がドイツであるとした。さらに、アジア太平洋地域における日本をヨーロッパにおけるドイツになぞらえ、更に独ソ同盟に日本を加えることを提案していた。ハウスホーファーの駐日武官としての経験は地政学者となる契機となり、親日家となった。

2. 英米系地政学

◇アルフレッド・セイヤー・マハン (1840-1914)

アメリカ 海軍軍人・戦略家

マハンの研究は海洋戦略・海軍戦略・海戦術などに及び、シーパワー・制海権・海上封鎖・大艦巨砲主義などに関する研究業績がある。主に英国海軍を研究分析し国力を増すためには制海権を獲ることが重要であるとし、海を支配する力 = シーパワーが世界の覇権を決めると考えた。

◇ハルフォード・マッキンダー (1861-1947)

イギリス 地理学者・政治家

ハートランド論を唱え、ユーラシアを基点とした国際関係の力学を地理的に分析した。大陸国家の勢力拡大への脅威から海洋国家イギリスを如何に守るかという戦略のあり方について研究した。大陸国家が外洋に出て、新たな海上交通路や権益の拡大をしようとするれば、海洋国家はそれを防ぐべく封じ込めを図ろうとする傾向を持つ。そうしたことから大陸国家と海洋国家の交わる地域での紛争危機が多い。

マッキンダーによれば、大英帝国の覇権を脅かす国は、ロシア帝国とドイツ帝国であり、ドイツがロシアを支配してハートランドとなるとより強力な脅威となる。ロシアとドイツを統合させないためにも、防波堤として東欧が重要である。「東欧を支配するものが、ハートランドを支配し、ハートランドを支配するものが世界島を支配し、世界島を支配するものが世界を支配する」さらに、海洋国家によるミッドランド・オーシャン連合を提唱した。

◇ニコラス・スパイクマン（1893-1943）

アメリカ 政治学者

リムランド理論を提唱し、「リムランドを制するものはユーラシアを制し、ユーラシアを制するものは世界の運命を制する」と主張した。

アメリカはランドパワー国家を誕生させないために積極的にリムランドに介入するべきとし、米国の政策に以下の提案している。1）ハートランドへの侵入ルートにあたるリムランドの主要な国々とアメリカが同盟を結ぶこと。2）この侵入ルートをつさぐ強力なリムランド国家（例：ヒトラー・ドイツによるフランスやノルウェー支配／ギリシャやトルコとの同盟）をつくらせないこと。3）リムランド諸国間のアメリカ抜き同盟をなくし、同時にハートランドの国にリムランドの国々を支配させないようにする。

現代（当時は第二次世界大戦中）の船舶技術において、アメリカをとりまく大西洋も太平洋も「防波堤ではなく、逆に高速道路である」とし、アメリカの孤立主義（モンロー主義）の不毛と危険を警告し続けた。これらの理論に基づけばリムランドに該当する極東の国々つまり中国、朝鮮の間でそれぞれが分裂した状態であることが望ましいということになると指摘する研究者もいる。

◆点 鐘（神谷会長）

